

地球惑星科学委員会SCOR分科会 GEOTRACES小委員会（第25期・第3回）
議事要旨

開催日時：令和5年3月10日（水）11：45～12：45

会議方式：現地・遠隔ハイブリッド会議（zoom利用）

場所：東京大学大気海洋研究所

出席者：小川 浩史, 乙坂 重嘉, 小畑 元（副委員長）, 小松 大祐, 熊本 雄一郎, 黒川 隆司, 近藤 能子（幹事）, 鈴木 光次, 宗林 由樹, 田副 博文, 谷保 佐知, 張 勁（委員長）, 西岡 純, 則末 和宏, 八田 真理子, 堀川 恵司（幹事）, 山田 正俊

オブザーバー：小林 英貴

（17名）

欠席者：蒲生 俊敬, 坂口 綾, 佐野 有司, 武田 重信, 永井 尚生, 羽角 博康

（6名）

議題等

1. 小委員会の活動報告について

委員長より、冒頭挨拶の説明があり、参考資料1, 2 についての説明があり、名簿記載内容の確認を行った。

2. 委員会の活動について

① GEOTRACES-SSC報告

近藤委員より資料1-1に基づき、2022年のNational Report（資料1-2）を提出したこと、2022年9月28-30日にハイブリッド方式（現地開催場所：英国サザンプトン）にてSSC会議が開催されたことについて報告がされた。また、日本地球化学会和文誌「地球化学」特集号「海洋における微量元素・同位体研究」についての編集進捗状況（総説論文13編投稿済み、そのうち10報は受理済）について報告があった。

② GEOTRACES-DMC報告

西岡委員より資料2に基づき、2022年9月にハイブリッド方式（現地開催場所：英国サザンプトン）にて開催されたDMC会議について報告がされた。次回のIDPの編集スケジュールは2025年11月頃のリリースを目指し、2024年5月15日と12月15日の2回の締切を設定する予定であること、GEOTRACESのFinal Data Productのリリースは2032年となる予定であること、またFinal Data Product以外にもモデルアウトプットなどの作成に向けDMC内で議論が進められている旨報告があった。

③ GEOTRACES-S&I報告

近藤委員より資料3に基づき、2022年にオンライン（2月、12月）またはハイブリッド（9月8-9日、現地開催場所：仏国プルザネ）で開催されたS&I会議について報告がされた。前回のIDP2021後、S&I委員の一部変更があったことが紹介された他、今後GEOTRACES Cookbookについても更新される予定である旨報告があった。

3. BioGeoSCAPES関連報告

鈴木委員より、2023年11月6-9日にWHOIにて開催予定のBioGeoSCAPESワークショップに向けたオンラインでの打ち合わせが3月22日より始まることが報告された（日本国内からは鈴木委員が参加）。BioGeoSCAPESプロジェクトは2025・2026年に本格的な活動が開始される予定であり、日本国内からは橋濱史典博士（海洋大）と遠藤寿博士（京大）もアンバサダーとして加わることが報告された。

4. 最近のGEOTRACES関連航海の実施状況及び今後の実施予定

小畑委員より資料4に基づき、GEOTRACES関連航海として、2022年2月20日-3月3日に実施された白鳳丸KH-22-4次化学系慣熟航海、6月30日-9月1日まで実施された白鳳丸KH-22-7次航海について報告がされた。また、2023年6月1-25日に実施予定の白鳳丸KH-23-2次航海（東京～東京）の紹介と、白鳳丸研究航海3カ年公募に採択されたGEOTRACES GPpr16 Cruise（2025年）についての報告がされた。

5. 国内Website, メーリングリスト, データ公表状況など

張委員長より、メーリングリストの新規登録・削除について現在登録者に一斉送信で確認することとなった。毎年4-5月にSSCから報告するAnnual Reportでは国内研究者のGEOTRACES関連業績リストを含めることから、GEOTRACES Japan用のEndnote（宗林委員が管理）への登録について周知することとなった。

6. その他

これまでIDPに登録申請を行っている航海で得られたセンサーデータのうち、まだGDACに登録されていないものがある場合は早急に提出する必要があるが、研究者から直接送付するのではなく、JODC経由で提出する方針となった。